

2025年度 学士入学試験 転部試験 科目等履修生選考 問題

早稲田大学政治経済学部

経済学

次の問題1・2に答えよ。解答はそれぞれの問題の所定の解答用紙に記入せよ。

問題1. ある財の市場に、次の費用関数をもつ企業1, 2が参入している。

$$\text{企業1の費用関数: } C_1(x_1) = 2x_1$$

$$\text{企業2の費用関数: } C_2(x_2) = 4x_2$$

また、この財に対する市場需要関数は

$$X = 10 - p$$

であるとする。以下の(1)～(4)に答えよ。

- (1) 企業1と2を比較するとき、どちらの方がより優れた生産技術を所有していると考えられるか。簡潔に理由を述べよ。
- (2) 企業1がリーダー、企業2がフォロワーであるときの、シュタッケルベルク均衡における社会的余剰の大きさを答えよ。導出の過程を詳細に論述すること。答は整数値にならない。
- (3) 企業2がリーダー、企業1がフォロワーであるときの、シュタッケルベルク均衡における社会的余剰の大きさを答えよ。この問題については計算過程を省略し、答のみを述べてよい。この場合も答は整数値にならない。
- (4) (2)と(3)の答の大小を比較し、そのような大小関係が得られる理由を考察せよ〔例えば、(2)における社会的余剰のほうが(3)における社会的余剰よりも大きくなった場合には、なぜ(2)のほうが社会的に望ましい結果をもたらすのか、その理由を述べよ。〕。

問題2. 以下の問(1)～(3)に答えよ。ただし、問(1)と(2)については解答用紙に計算結果のみ記入すること。

- (1) $Y = C + I + G$, $C = 30 + 0.9(Y - T)$, $I = 50$, $G = 20 + gY$, $T = tY$ とする。ここで、 Y , C , I , G , T は各々国民所得、消費、投資、政府支出、租税である。もし $g = 0.09$, $t = 0.1$ ならば、 $Y = (\text{ア})$ となる。このとき財政収支は、(イ)の赤字となる。 $g = 0.08$, $t = 0.2$ とすれば、 $Y = (\text{ウ})$ であり、財政収支は(エ)の黒字になる。 $Y = (\text{ア})$ の水準で財政収支を均衡させるには、 $g = (\text{オ})$, $t = (\text{カ})$ としなければならない。
- (2) $Y = C + I + G$, $C = 50 + 0.6(Y - T)$, $I = 80 + \frac{2}{r}$, $M = 0.4Y + \frac{10}{r}$, $M = 820$ で表されるIS-LMモデルを考える。 r と M は各々利子率とマネーサプライであり、その他の変数の意味は上の問(1)と同じである。もし $G = 150$, $T = 100$ ならば、均衡国民所得は(キ)、均衡利子率は(ク)である。均衡財政によって同じ国民所得、同じ利子率を実現するためには、 $G = T = (\text{ケ})$ とすればよい。さらに、 $G = T = (\text{ケ})$ のままで、均衡国民所得を(キ)より25だけふやそうとする場合には、マネーサプライを(コ)にすればよい。
- (3) 2016年2月、日本では初めて10年物国債の利子率(利回り)がマイナスになった。なぜそのようなことが起こりえたかを、国債の価格と利子の関係から説明しなさい。

